孫戸妍女史肖像

スワニーホワイエに掲げられている孫戸妍さんの肖像と短歌

ホワイエに韓国の歌人、孫戸妍（ソン・ホヨン）女史の肖像写真と、孫女史が詠んだ歌が日本語と韓国語で掲げられています。

「切実な望みが一つ　吾にあり　諍いのなき　国と国なれ」

日本の教育者であり文学者である中西進氏の書によるこの歌は、2005 年 6 月、韓国で日韓首脳会談が行われた際、当時の小泉純一郎総理大臣が記者会見の席上で引用したことで有名になりました。

孫女史は韓国人でありながら、素晴らしい日本語で短歌を詠んだ歌人です。80 年の生涯で詠んだ歌は 2000 首をこえ、いつか日本に歌碑を建てる夢を持っていたところ、様々な偶然や幸運が重なり実現することになりました。

思いに共感した経団連専務理事・糠沢和夫氏（役職当時）、附田建設株式会社会長・附田義美氏らのご尽力により、1997 年 6 月、尾駮レイクタウンにあるスワニーの近隣地に、念願の歌碑が建立されました。

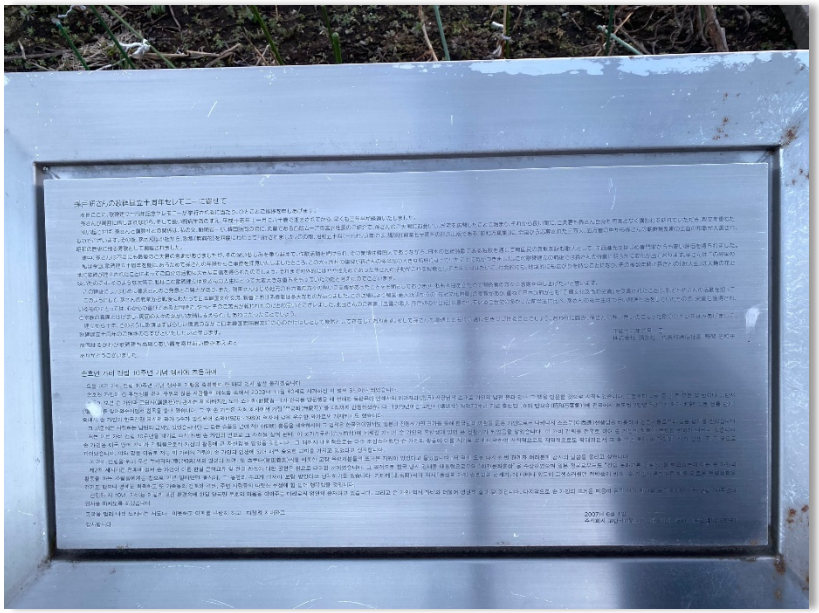
尾駮レイクタウンにある孫戸妍さんの歌碑

歌碑建立ののち、その功績を広く知ってもらおうとスワニーに肖像写真が飾られることになりました。

経済団体連合会専務理事　糠沢和夫氏

附田建設株式会社会長　附田義美氏

歌碑除幕式参列者名簿。左側が韓国出席者、右側が日本出席者



株式会社講談社６代社長、野間佐和子氏によるお祝いの言葉。歌碑十周年記念式典にて

歌人　孫戸妍

孫戸妍　Son－Hoyun（1923－2003）

【略 歴】

1923 年 11 月 15 日、当時、早稲田大学の学生だった父孫洪九のもと東京生まれる。
生後間もなく帰国。
40 年、帝国女子専門学校（相模女子大学の前身）に留学。
43 年、に同校卒業後、帰国。日本の文部省より京城舞鶴高女教諭に任命される。その間、歌誌「心の花」の主催者、佐々木信綱博士に師事し、短歌を詠み始める。
44 年、韓国に帰国し 21 歳で処女作「戸妍歌集」を講談社より出版。
47 年に李允模（イ・ユンモ）氏と結婚、一男四女をもうける。その間、朝鮮動乱による三年余りの避難生活を体験。夫は韓国商工部の特許局長を務め、特許分野の発展のために貢献。退官後は国際工業所有権保護協会（AIPPI）の韓国支部長を長年務める一方、自身の特許事務所を経営した。
78 年、万葉集や他の古典文学の研究のため三度来日、昭和女子大学大学院に学んだのち成城大学大学院で中西進教授（現・大阪女子大学長）の指導を受ける。
58 年、講談社より「無窮花」出版。
68 年、講談社より「第二無窮花」、80 年に「第三無窮花」を出版。
83 年 11 月、夫の急逝。
90 年、夫との別れを詠んだ歌々を「第四無窮花」にまとめて出版。

※参考文献 「風雪の歌人　孫戸妍の半世紀」（北出明著）講談社出版・孫戸妍歌集（李承信編集）

東奥日報　2007 年(平成 19 年)3 月 19 日(金曜日)

「日韓友好の懸け橋に」

韓国の和歌歌人・孫戸妍さん

日韓友好の懸け橋に

六ケ所村の尾駮沼を見下ろす高台に、韓国唯一の「和歌」の歌人といわれる孫戸妍（ソン・ホヨン）さんの歌碑が立っている。多感な学生時代を日本で過ごし、戦前・戦中・戦後と長く短歌を詠み続け二〇〇三年、八十年の生涯を閉じた。わずか三十一文字には祖国韓国や日本との友好・平和への願い、家族や友人に対する愛が凝縮されている。戸妍さんの長女・李承信（イ・スンシン）さんら十二人がこのほど韓国・ソウルから来訪、花束をささげた。歌碑建立から六月で十年、多くの人たちが今も戸妍さんの「心のふるさと」になった本県、六ケ所村を訪れ続けている。

（野辺地支局・珍田秀樹）

六ケ所の歌碑 建立10年

君よわが愛の深さをためさむと　かりそめに目を閉ちたまひしや

承信さんらから韓国語・英語訳をした短歌集などを受け取る古川村長

国内から祖国から 来訪者絶えず

孫戸妍さんの歌碑を訪れた韓国・ソウルからの一行。後ろに見えるのが「君よわが愛の一」の歌碑

東西南北 2007

君よわが愛の深さをためさむと　かりそめに目を閉ちたまひしや

碑に刻まれた短歌は、一九八三年に急逝した夫・李元模（イ・ユンモ）さんとの別れを詠んだ。最愛の人の死を信じられない、信じたくないという思いが伝わってくる。

日韓経済協会の会報を通じてこの歌に出合った当時のむつ小川原開発会社社長・棟沢和夫さんが、日本に歌碑を建てたいという戸妍さんの思いをかなえようと建立を提案。同村の会社役員附田義美さん（六三）の協力を得て九七年六月、尾駮レイクタウンの一角に歌碑が完成した。

母国の文化勲章受章

歌碑建立が紹介されたことにより、母国で無名に近かった戸妍さんへの関心は急速に高まった。自国の詩調（シジョ）ではなく和歌を詠む戸妍さんに対し、植民地支配などで反日感情のある韓国だけに好意的でない人もいたが、多くの人々の評価を受け、二〇〇〇年には韓国の「花冠文化勲章」を受章した。

切実な望みが一つ吾にあり　譯（いさか）いのなき国と国なれ

二〇五年六月、韓国大統領府の青瓦台で開催された日韓首脳会談後の共同会見で、小泉純一郎首相（当時）が戸妍さんの短歌を引用、話題を呼んだ。その影響で歌碑がある六ケ所村には問い合わせや訪問が相次いだ。

二月二十一日、歌碑を訪れた承信さんら一行を、附田さんと、当時棟沢さんの下で建立のため奔走した三星力蔵さん（六三）が出迎えた。村文化交流プラザ「スワニー」には、戸妍さんが書いたハングルと、戸妍さんの師の一人で文学博士・中西進氏の筆による垂れ幕が掲げられた。古川健治村長はその前で「歌碑を通じて村と日本、村と韓国に新しい出合いをもたった。戸妍さんの心のふるさととして、いつまでも村を訪問してほしい」と一行を歓迎した。

来訪したメンバーは、承信さんが通うソウルのキリスト教会の友人、三人。

承信さんは現在、孫戸妍記念事業会理事長として母の短歌の韓国語訳、英語訳の出版や戸妍さんの人生の映像化などに取り組んでいる。戸妍さんと暮らした家をギャラリーに改装し、文化・芸術空間として活用している。

隣りいて胸にも近き国なれと　無窮花（むくげ）を愛でてさくらも愛でて

名刺にこの和歌をすり込んでいる承信さん。「韓国では今、多くの知識人が短歌に関心を持っている。今後、父母の人生を描いた映画を作ることと、母の記念館を日韓両国に建てることが目標。そして将来、日韓平和賞を創設したい。両国の友好、世界の平和が続くことは母の祈りであり私の祈りです」

何度も青森訪れる

戸妍さんは元青い森の特派員も務めており、承信さんは「母は六ケ所村が大好き。村を詠んだ短歌もたくさんある。母と同じように、ここを訪れた人たちは自然あふれる村や青森県をとても気に入り、何度も来ている人もいるんです」と笑顔で語る。

附田さんは「歌碑建立によって、戸妍さんに光が当たっていることをとてもうれしく思う。交流を大切に、次代にも引き継いでいきたい」、三星さんは建立当時を回想しつつ「戸妍さんという、大きな人物とかかわれたのはとても光栄なこと」と話した。

年前、牧師さんに韓国語に訳した母の歌集を贈ったところ、とても感動してくれた。以来、教会内で母の短歌ファンが増え、たくさんの人が歌碑を見るため村を訪れている」と承信さん。

歌碑の建立から 10 年を迎えた 2007 年、六ヶ所村を訪問した孫さんの娘、李承信（イ・スンシン）さんらを紹介した当時の新聞記事。